

# 遺伝カウンセリングの強化って??

(2014年6月12日)

室月 淳)

新型出生前診断 (NIPT) で、検査陽性者 141 人のうち 2 人が確定検査を受けずに人工妊娠中絶をした、というニュースが報道されました。この検査ではもともと陽性者の 85 ~ 90% のみが真の染色体疾患であるため、検査陽性のときは羊水穿刺などの確定診断を受けることが必須とされています。

ところで今回の各社の報道をまとめてみますと(いちばん下を参照), 時事通信は「日本医学会はカウンセリングの強化などの対策を検討」、読売新聞は「日本医学会は再発防止に向けた対応を協議する」、NHK は「日本医学会は「あってはならないことで再発防止に努めたい」としている」とあります。すなわち日本医学会は、この問題にたいして「カウンセリングの強化によって再発防止をおこなう」といった見解をもつものと思われまます。

平成 25 年度の 1 年間で新型出生前検査の受検者は 7,700 名余、そのうち検査陽性者 141 名です。陽性者のなかで羊水検査などの確定診断を受けなかったのが 2 名 (1.4%) というのは、実際に NIPT の 遺伝カウンセリング を担当しているわれわれの印象からいうと、予想外といえるほどすくない数字なのです。

遺伝カウンセラーとしてはかなり健闘したといえるのではないのでしょうか。カウンセリングの埒をこえて、陽性といわれてそのまま中絶をしようとする妊婦のことをなだめたり、おどしたり、すかしたり、あるいは前医にたいしてなんども連絡をとって説得したりと、かなり無理もしただろうと思います(笑)。もちろんこの数はゼロになることが理想であるとはいえませんが、なかなかそれは難しいでしょう。それは産科医ならば容易に想像がつくはずで。

検査施行側のだれだって確定検査を受けるべきと考えています。妊婦は検査前のカウンセリングで疑陽性の可能性をしっかりと説明され、それに納得、同意して採血を受けるわけですが、実際に陽性とされるとショックをうけ動転してしまいます。人間はいつも理性的な選択、理性的な行動をするわけではありません。

たとえば NT を指摘され高次医療機関を紹介受診した妊婦のなかには、どのように説明、説得しても羊水検査を受けずに人工妊娠中絶をえらんでしまうひとたちがいます。われわれがくりかえして強くいえばいほど、もう二度と受診しなくなります。そこにはさまざまな事情がかくれています。おおくの妊婦はこどもがほしくて妊娠しますが、なかにはそうでないひともいるのです。

実質上、日本の現状では妊娠中期の中絶が自分の意志で自由にできるわけですから、医療機関としては最終的にそれをとめるすべをもちません。ふつうならばだれでも中絶は自由なのにもかかわらず、NIPT をうけて陽性とでたときにかぎって勝手な中絶は禁止されるといっても、妊婦にたいしては説得力をもたないのです。

そもそも 遺伝カウンセリング はクライアントへの説得手段ではありませんし、ましてやクライアントとの取り引きでも、クライアントへの強制力でもないわけです。また 遺伝カウンセリング は

生命倫理や社会正義実現の手段でも方法でもありません。あくまでもクライアントとしての妊婦本人のためのものです。妊婦によりそい、そしてその不安に対処していくためのコミュニケーションです。

教科書的には、遺伝カウンセリングとは「情報提供などを通して、クライアントが自立的に選択できるように援助するコミュニケーション過程」とあります。そこでは科学的な情報提供と非指示的な対話のなかからうまれてくる、クライアント自身の自己決定が尊重されます。

この過程のどこに、「強化」とか「あってはならないこと」、「再発防止」といった概念がかかわってくる余地があるのでしょうか？ くりかえしますが、遺伝カウンセリングはクライアントのためにのみ存在するのであり、生命倫理や社会正義実現のためにあるわけではありません。

もちろん遺伝カウンセリングが十全に達成されれば、結果的に倫理的に社会的にすぐれてのぞましい姿が実現するということはあります。しかしそれは目的ではなく、あくまでも結果にすぎません。

遺伝カウンセリングは「強化」される対象ではありませんし、なんらかの「再発防止」のための手段などではありえないのです。それは遺伝カウンセリングにたいする根本的誤解だろうと思います。

## 2人が確定検査受けず中絶＝新型出生前診断で、異常ない可能性

ツイート 4 いいね! 0 bit 0 Check 8+1 tumblr Pocket 2

2014/06/11 22:02 記者：時事通信社 カテゴリ：政治・経済・社会 タグ：時事通信社

▶ **KDDI/法人向けアンケート**  
今ならアンケートにご回答頂いた方から抽選でギフト券プレゼント！6/30まで  
[www.kddi.com](http://www.kddi.com)

Ads by Yahoo! JAPAN

妊婦の血液から胎児のダウン症などの染色体異常を調べる新型出生前診断で、異常の疑いがある陽性と判定された141人のうち、少なくとも2人が確定検査を受けずに人工妊娠中絶していたことが11日、分かった。実際には問題がなかった可能性があり、報告を受けた日本医学会はカウンセリングの強化など対策を検討する。

検査でダウン症が陽性だった場合の精度は、35歳の妊婦で80%。検査対象の他の2種類の染色体異常では精度はさらに低く、いずれも羊水検査などの確定検査が必須だ。

[時事通信社]



## 新型出生前検査、確定診断受けず中絶

ツイート 390 | 共有 27 | コメント

### 「陽性」2人 病気でない可能性も



妊婦の採血でダウン症などの胎児の病気を調べる**新型出生前検査**で、病気の疑いがある「陽性」と判定された妊婦2人がその後の確定診断を受けずに人工妊娠中絶をしていたことが読売新聞の取材でわかった。

新型検査は「陽性」と出ても実際には病気ではないことがあり、検査指針で「医師が十分説明し、理解を得ること」と定めている。検査実施病院を認定する日本医学会は事態を重く見て、病院に詳細な報告を求めた。今後、再発防止に向けた対応を協議する。

新型検査は例えばダウン症の場合、「陽性」と出ても35歳の妊婦なら20%が、42歳では5%は実際にはダウン症ではないとされる。確定には羊水検査など腹部に針を刺して調べる検査が必要だが、従来の血液検査に比べて精度が高いため、新型検査の結果のみで中絶する恐れが懸念されていた。

#### 画像の拡大

2例、いずれも、新型検査を受けた認定病院とは別の産院で中絶が行われていた。うち1人の検査を行った認定病院では、判定後、結果の説明などのために遺伝カウンセリングを実施、羊水検査の予約も受けたが、当日、妊婦が受診しなかった。その後、妊婦健診で通院していた産院で中絶が行われたという。

新型検査は昨年4月から国内で実施され、1年間で約7800人が検査を受け、少なくとも141人が陽性と判定された。

日本医学会検討委員会の福嶋義光委員長(信州大教授)は、「本来は起きてはならないことだ。遺伝カウンセリングが適切だったのかなどを検証し、再発防止に努めたい」と話す。

**新型出生前検査** 妊婦の血液中にある微量の胎児のDNAを分析し、ダウン症など3種類の染色体の病気を調べる。胎児に病気のリスクの高い高齢の妊婦などが対象。

(2014年6月11日 読売新聞)



2014年(平成26年)6月12日【木曜日】

トップページ > 科学・医療ニュース一覧 > 新型出生前検査 妊婦2人確定診断受けず中絶

### ニュース詳細

## ◆ 新出生前検査 妊婦2人確定診断受けず中絶

6月11日 18時02分



陽性判定141人のうち2人が  
診断確定させる検査受けず中絶

妊婦の血液を分析して胎児に染色体の病気があるかどうか判定する新しい出生前検査を受けた妊婦2人が、診断を確定させる検査を受けないまま中絶していたことが分かりました。

日本医学会は「あってはならないことで再発防止に努めたい」としています。

去年4月から国内で始まった新しい出生前検査は、妊婦の血液を分析して胎児にダウン症など3つの染色体の病気があるかどうか判定するものですが、この検査で「陽性」と判定されても例えばダウン症では35歳で15%ほど胎児が病気でない可能性があります。

このため「陽性」と判定された妊婦は、羊水を採るなど別の検査を受けて診断を確定させることになっていますが、全国の産婦人科医のグループが調べたところ、これまで「陽性」と判定された妊婦141人のうち2人がこうした検査を受けないまま中絶していたことが分かりました。

日本医学会の福嶋義光委員長は、「本来あってはならないことで医療機関に注意を促すなど再発防止に努めたい。また妊婦の方にも確定診断が必要なことを理解してもらいたい」と話しています。

---

ご意見、ご感想などがありましたら、ぜひメールでお寄せ下さい  
アドレスは murotsuki に yahoo.co.jp をつけたものです

[無侵襲的出生前遺伝学的検査 \(NIPT\)\(いわゆる新型出生前診断\) について](#) [にもどる](#)

[室月研究室ホームページトップ](#) [にもどる](#)

[フロントページ](#) [にもどる](#)

カウンタ 96 (2014年6月12日より)